［様式９－１］

福祉サービス等第三者評価結果

総 合 評 価

受診施設名	三室戸保育園	施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

2011 年 2 月 16 日

総評	三室戸保育園の運営母体である社会福祉法人宇治福祉園のホームページを開くと、とても可愛く優しい歌声が聞こえてきます。法人のイメージは本ホームページで映像を通じて確認することができる等、多彩なコンテンツで分かりやすい情報提供がされています。 その中において「いのちを大切にするということは、あらゆる主義・主張・立場を超え、すべての人間に共通して重要なことである。･･･」という書き出しから始まる法人の理念が明確に示されています。 続いて「保育の基本方針・保育目標」が具体的に示されていますが、法人の経営者は「保育者たるもの研究者であれ！」と先進的なリーダーシップを発揮し、そのことが現場において高い専門性に裏付けられた保育実践につながっていることを確認しました。 たとえば、落ち葉やどんぐりなどの自然の植物を利用した創作、“笠取の家”での自然体験、季節を意識し提供される給食、園内至る所にみられる自然木のオブジェ等、さりげなく、それでいて意図的な保育環境が見受けられました。 こどもが主役である。こどもが遊びを見つけられるよう、自分から遊び出したくなる雰囲気を職員が作る。その中から他人を思いやる心、社会性や協調性を自然に育成していく。保育の目標とされている「生きていくための基礎となる力」を育むための実践が行われていました。 この保育実践の裏付けとなるものが、独自のシステムにより得られる「保育課程」にあると言えますが、このシステムの構築と展開においては、職員集団の一致した意識と向上心が不可欠です。そして、それを維持継続できているのは、管理者の高いレベルでのリーダーシップがあってのことだと考えます。 独自のソフト開発によるパソコンでの保育環境の記録管理やボイスレコーダーを利用した保護者からの申し送りの記録、職員に徹底された情報の共有など、仕事に対するやりがいを持って生き生きと働いている現場職員にとっての理想的な職場環境が見受けられました。 今回の調査においては、園職員全体を巻き込んでの第三者評価に対する充実した取組みが図られた状況と、同時に、非常に高いレベルで保育の実践がされていることを確認できました。 今後も管理者のリーダーシップと職員全体のコンセンサス（合意形成）をバランス良く築きながら、一丸となって子どもたちの可能性を最大限に生かしていく、質の高い保育実践を続けていかれることを期待しています。

特に良かった点（※）	Ⅰ－２－（２）保育の計画の適切な策定 園運営管理システムにより、保育理念、保育の基本方針、保育課程、年間指導計画、月刊指導計画の整合性が常に保たれている。 Ⅱ－２－（３）職員の質の向上に向けた体制の確立 保育管理検討シートにおいて、職員の課題・目標の把握を行い、「職員研究課題」として一覧にし、職員研修計画に具体性を持たせている。 Ⅲ－２－（１）サービスの質の向上に向けた組織的取り組み 園運営管理システムを用いた自己評価を行い、改善への取り組みに資している。 Ⅳ－１－（２）保育環境の整備 保育環境において「子ども一人ひとりに合わせた食事環境」と「自然や季節感のある保育環境」に顕著な取組みが見受けられる。
特に改善が 望まれる点（※）	Ⅲ－３－（２）サービスの継続性に配慮した対応 転園等における園児の引き継ぎに関する文書が確認できなかった。何かしらの文書により、他園への引き継ぎを行うことが望ましい。

※それぞれ内容を３点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

［様式９－２］

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	三室戸保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2010年12月22日

保育所評価基準　対比シート

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅰ－１ 保育の理念・基本方針・目標	Ⅰ－１－（１） 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	①	保育の理念が明文化されている。	A	A
		②	保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	Ⅰ－１－（２） 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	①	保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		②	保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
Ⅰ－２ 計画の策定	Ⅰ－２－（１） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	①	中・長期計画が策定されている。（非該当）		非
	Ⅰ－２－（２） 保育の計画が適切に策定されている。	①	保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		②	保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③	指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④	保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
		⑤	保育課程・指導計画が職員や利用者に周知されている。	A	A
Ⅰ－３ 管理者の責任とリーダーシップ	Ⅰ－３－（１） 管理者の責任が明確にされている。	①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	Ⅰ－３－（２） 管理者のリーダーシップが発揮されている。	①	質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		②	経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]	
Ⅰ－１（１）	「入園のしおり」、「宇治福祉園の概要」、「わたしのほいくえんの本」、ホームページ、園内の掲示等で保育理念と基本方針等が明記され、保育の方針と保育の運営課程に反映されている。
Ⅰ－１－（２）	「コドモーション」というパソコンシステムにて種々の会議記録等を職員が周知できる仕組みがある。また、ホームページでは利用者に保育内容、行事等をわかりやすく周知している。ホームページは宇治市のホームページからもリンクしている。
Ⅰ－２－（２）	園独自の保育課程検討シートを用いることで、地域の課題なども把握した上での保育課程が編成される。また、保育日誌等の記録と指導計画、保育課程等の整合性を会議で確認し、園の運営システムなどで職員周知をはかっている。
Ⅰ－３－（１）	「みむろど・Ｈａｎａはなだより」、「社会福祉法人宇治福祉園ホームページ」、「入園のしおり」、「社会福祉法人宇治福祉園の概要」などに管理者の役割と責任について記載し、会議等においても表明していることを確認した。
Ⅰ－３－（２）	管理者自ら会議を指揮し、保育に関わる情報の発信と指導を毎朝の朝礼で行っていることが、記録によって確認できた。また、園運営管理システムにより、業務の効率化をはかっている。

Ⅱ　組織の運営管理

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果 自己評価	評価結果 第三者評価
Ⅱ－１ 経営状況の把握	Ⅱ－１－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。	①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
Ⅱ－２ 人材の確保・養成	Ⅱ－２－（１） 人事管理の体制が整備されている。	①	必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
	Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。	①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
	Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
		③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
	Ⅱ－２－（４） 実習生の受け入れが適切に行われている。	①	実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
		②	実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
Ⅱ－３ 地域との交流と連携	Ⅱ－３－（１） 地域との関係が適切に確保されている。	①	利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		②	事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③	ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	Ⅱ－３－（２） 関係機関との連携が確保されている。	①	必要な社会資源を明確にしている。	A	A

[自由記述欄]

Ⅱ－１－（１）	園長が保育協会の理事を務めていることから、日常的に保育に関わる情報を収集することができている。また、保育士を地域の子育てサークルに派遣しており、子育て世代の生の声を聞くことができている。
Ⅱ－２－（１）	職員に臨床発達心理士を配置するなど、保育の専門性を向上させる人事配置を行っている。
Ⅱ－２－（２）	園長との定例個別面接を実施し、職員の勤務状況や要望を聞くとともに、メンタルヘルスにも貢献している。
Ⅱ－２－（３）	保育課程、保育方針に基本的な姿勢が明記されている。保育課程検討シートに職員の課題・目標を上げ、「職員研究課題」として一覧にしている。
Ⅱ－２－（４）	実習生の受け入れに関するマニュアルが整備されている。園独自の指導案に基づく指導計画を策定している。
Ⅱ－３－（１）	職員・園児による地域清掃、子育てサポートセンター事業の催し物、鑑賞会、民生委員主催事業への職員派遣、地域小中学校との交流を意識的に行っている。
Ⅱ－３－（２）	関係所機関のリストアップや行政機関との連携を各マニュアル内で記すとともに、園長が職員会議等で説明し、周知をはかっている。

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	①	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ－１－（２） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	①	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		②	利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ－２ サービスの質の確保	Ⅲ－２－（１） 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	①	定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		②	定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ－２－（２） サービス実施の記録が適切に行われている。	①	入園面接･健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ－３ サービスの開始・継続	Ⅲ－３－（１） サービス提供の開始が適切に行われている。	①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
		②	保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ－３－（２） サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	①	転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	B

[自由記述欄]	
Ⅲ－１	「保育関係マニュアル内の“プライバシー保護について”」においてマニュアル整備の確認ができた。また、苦情解決の仕組みは「危機管理マニュアル内“苦情解決対応マニュアル”」において整備されており、入園のしおりやポスターの掲示等で周知されている状況を確認した。「指づめが危ないドアがある」という意見に対し、迅速に対応した事例を具体的に聞き取ることができた。
Ⅲ－２	（1）第三者評価受診に際しては、職員全体で組織的に有意義に取組まれた状況を聞き取ることができた。また、改善計画を策定する等、定期的な受診による効果を発揮されている状況を見受けることができた。 （2）入園面接は、「入園のつどいについて」の取扱説明書において手順が確立しており、入園時面接シートにおいて適切に記録されている。また、記録保管・保存等に関しては規定を定め、適切に管理されている。
Ⅲ－３	利用希望者に対しては、ホームページや紹介ビデオを作成し、公開している。年間１００件を超える見学対応実績がある等、園見学・体験保育に関しても随時対応している。保育の開始にあたっては、「入園のしおり」を配布し、保育サービス利用料等適切な説明と同意において進められている。 他の保育所への変更等に際しては、「保育要録」に従い保育の継続性に配慮されているが、手順に関する文書が確認できなかったためＢとした。

Ⅳ-1　子どもの発達援助

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅳ－１ 子どもの発達援助	Ⅳ-１-（１）健康管理・食事	①	登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		②	健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③	歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④	感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤	食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	Ⅳ-１-（２）保育環境	①	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		②	生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	Ⅳ-１-（３）保育内容	①	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		②	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③	子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④	身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤	さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥	遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
		⑧	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

［自由記述欄］

Ⅳ－１-（１）	子どもの発達援助で、特に食事面に関しては、有意義な取組みが多く見受けられる。 ⑤食事の掲示や紹介、リクエストメニュー、チャレンジメニュー、おやつビュッフェ等年齢に応じて食事を楽しむことができるよう工夫されている。 ⑥毎日玄米食、トレーで食べることで「三角食べ」やお箸の使い方が上手くなる等、食育に関しても有効に取組まれている状況を確認することができた。また、残食量も子どもと一緒に確認してグラフ化したり、「リクエストメニューお知らせカード」を配布する等、一人ひとりの発達援助の実践状況が見受けられた。
Ⅳ-１-（２）	①耐震補強と保育環境の充実、併せて宇治市の保育需要に応えることを目的に、平成22年10月から保育園舎の増改築及び分室の設置・改修事業が進められている。保育室の内装は、１階は木調、2 階は汚れに強いメンテナンスフリー、3 階は畳に障子といった和の設えで特性を持たせ、あそびに応じた保育環境の充実を目指している。
	②場面に応じたスペースの確保に工夫があり、園内に自然物を多く取り入れて、五感を意識した環境づくりが行われている。こどもたち手づくりの草染め布を装飾した園内は、自然の息吹や季節感が感じられ、くつろぎや落ち着きを大切にした生活空間づくりへの努力が随所にみられる。
Ⅳ-１-（３）	①平成22年度事業計画に、『保育において肝要なことは、「人は絶対に他者を理解することが出来ない」という保育者自身の謙虚な自覚であり、他者尊重の態度である。』と示されている。保育理念や保育方針・保育目標を基にした一人ひとりを受容する態度、安心信頼を大切にする言葉がけがみられた。
	③あそび日誌において、創造的なあそびの研究・評価を行っている。玩具・遊具は手作りのものを多く取り入れ、好きなあそびができるコーナーづくりにも工夫が感じられる。「森の部屋」と名付けられた部屋に置かれた大木はくつろげるあそび空間になっている。
	④平成２２年度の保育プロジェクトの６テーマの一つに「自然あそびプロジェクト」を定め、自然の恵みを満喫するような造形活動を展開している。自然体験の場として付属施設「笠取の家」があり、野菜の栽培・収穫体験、野染め体験等を重ねている。豊富な自然体験は、保護者のアンケートでも園の特徴として多数の共感がみられる。
	⑤保育プロジェクトの６テーマの一つ「表現あそびプロジェクト」では、こどもたちの自由な発想を表現あそびへ展開することを目指し、積極的に研究され素材の吟味や作品の装飾にも工夫がみられる。地域の運動公園「太陽が丘」の木々を0歳から6歳児までの作品が飾る「森の美術館」も開催されている。また、身体を使った様々な表現あそびは意欲的に取り組まれ、自由に歌ったり踊ったりできる環境づくりがされている。運動遊び担当の保育士が設定されているのも特徴である。園では独自の歌と体操が季節ごとに、また行事に合わせてつくられ、ホームページでも配信、こども達や保護者の楽しみになっている。
	⑦こどもの人権尊重について保育士と保護者が共通認識を深め手本となれるようにるように、育児講座（いくじーず）、クラス懇談会、個人懇談会等の機会を通して、保護者に働きかけている。

Ⅳ-2　子育て支援

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅳ－２ 子育て支援	Ⅳ－２－（１） 入所児童の保護者の育児支援	①	一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		②	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥	子どもの発達記録やケアー記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	Ⅳ－２－（２）一時保育	①	一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]	
Ⅳ－２－（１）	①送迎時の保護者との対話をボイスレコーダーに録音して、周知が必要な事項は園運営システムに入力して職員が共有している。個人懇談会、クラス懇談会に加え、相談随時受け付けポスターを掲示して、保護者に対して積極的な子育て支援を行っている。「相談しやすい」という声は保護者のアンケートにも多数挙がっている。
	③保護者の保育参加の機会として、運動会準備係、環境整備係、バザー「夢の広場」役員等を設け、共通認識を得る取り組みを行っている。
Ⅳ－２－（２）	①分園「さんりん舎」において、１歳から就学前までの一時保育に対応している。

Ⅳ－３　安全・事故防止

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅳ－３ 安全・事故防止	（１）安全・事故防止	①	調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		②	食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③	事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④	事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]	
Ⅳ－３（１）	③④朝の会議において環境チェックを行い、保育士の気付きをボイスレコーダーに記録している。各種マニュアルに加えて事故防止のための細かな点検シート等を作成して月１度点検を行い「ヒヤリハット図」を作成している。これらの事例は園運営システムに記録して改善に繋げている。朝夕の送迎時には定位置に安全保安要員として保育士が立ち、交通整備を行っている。